

福山大学 図書館報

Library Announcement,
Fukuyama University

創刊号
2003.9

<目次>

対話としての読書 カルロ・コッローディ『ピノッキオの冒険』を読む	片岡俊郎…………… 1
図書館の思い出	尾島 勝…………… 2
情報をどうやって得るか 図書館とインターネット	鶴崎健一…………… 3
雑誌論文を探す	…………… 4
図書館のみんなに支えられて	加藤淳子…………… 9
教員著作寄贈図書	…………… 9
書評『沈黙の春』	山本英二……………10
図書からのお願い	牛尾一之……………11

対話としての読書 カルロ・コッローディ
『ピノッキオの冒険』を読む
附属図書館長
経済学部 経済学科教授 片岡俊郎

私はコッローディ『ピノッキオの冒険』(1883年、大岡玲訳、角川文庫、2003年2月)を読んだ。杉浦明平訳の岩波少年文庫も併読した。操り人形のピノッキオは、もともといたずら好きだったが、冒険に乗り出すのは、ピノッキオの製作者、貧しいゼペットじいさんが、ピノッキオを学校に行かせるために、自分の着ている上着を売って与えた教科書を、ピノッキオが人形芝居を観るために売り払うことから始まる。

ピノッキオの生活信条は、食べて、飲んで、寝て、遊びほうけて、朝から晩までのらくら過ごすことである。ピノッキオの学校嫌い、勉強(書物)嫌い、先生嫌いであることが、全篇のテーマなのである。

まず、ピノッキオの持っている金貨をだまして盗むために、人殺しまでするキツネとネコは、ピノッキオが学校に行き勉強する気持ちをそごうと、勉強したら足は不自由になり、両目が見えなくなると、ふりをすることによって示す。

次に、ピノッキオが仙女のおかげで、いったん人間にしてもらおう機会を失うのは、学校がない、先生がいない、勉強する必要もない「おもちゃの国」への友人の誘惑に負けたことによる。

最後に、ピノッキオが、人間の子になれるのは、ゼペットじいさんと病人となった仙女を、ピノッキオが厳しい労働に耐え、働くことによって救うからである。

キツネの足の不自由なふりと、ネコの両目が見えないふりは、学問は少年の自立に役立たず、学問が近視眼的であり、とても洞察力には結びつかないことを示している。

「おもちゃの国」での生活は、せいぜい5カ月で終わり、「おもちゃの国」の住民が8歳から14歳までの少年であることから、他人から金や物を恵んでもらう資格があるのは、老人と病人であり、働かずに「おもちゃの国」で生活している少年達は、ロバにならざるをえない。学校嫌いのピノッキオが、一人前として自立するのは、働き場所を見つけ、そこで働き、技術を身に付けることによって、人間としての生活のめどを立てたことによる。

ゼペットじいさんが、操り人形を作るために手に入れた棒つきは、勉強嫌い、働き嫌いであった少年の象徴であることは、ピノッキオが、学校に行くか、働き場所を見つけるかのいずれか一方を選択した時点で、操り人形が、人間になることによって示される。

大学を含め、「学校、勉強(書物)、先生」の使命が、重要であることが説かれるのである。



図書館の思い出

工学部 建設環境工学科教授 尾島 勝

私個人のこれまでの図書館の利用をふり返ったとき、学習法・研究法として特筆できることはほとんど思い浮かばない。しかるに、図書館報創刊号の原稿依頼を安請け合いしたものだ。

私は子供の頃から本を見る、本を読むことは好きだったと思う。小学生の時は、転校後の2年生から6年生まで学級替えがあったものの幸いなことに、同じ男の先生に担任してもらった。その先生は、私と干支が同じ一回り上のその学校で一番若いスポーツ万能、教育熱心な先生であった。先生の長姉さんも学校の先生で、戦災にも遭わず古い2階建の先生のお宅には、多くの文学全集や種々の本が沢山あった。多分3年生頃からと思うが、私達の級の希望する子供達は、先生の宿直日には夕刻から宿直室に集まり、宿題を教えてもらったり、自由に本を読んだり、遊んだりして楽しい日々を送った。また、休日にはかつてに先生のお宅にまで押しかけて行って、先生のお母様やお姉さんにも遊んでもらったり、お姉さんに難しい文学全集を読んでもらったり、また借りて帰って、字引を手に少しずつ読破していった思い出がある。私は小学1年生の夏に発病したある病気の後遺症と思われる突然の目眩や失神に悩まされながら、この先生から屋外でのスポーツや遊びを奨励されて6年生を終えるころには、スポーツ万能とまではいかないが、ソフトボール、サッカー、水泳など、2流選手並みの技術と体力を身につけることができていた。今日の私の職業をすでにこの頃、この担任の先生は予感していたという。私が今日のように健康で、教育・研究に携われるのはこの先生の病弱な私に対する親にもまさる献身的な愛情によるものであると、いつも感謝している。

話を元に戻すと、少年期

の私の図書館は、先生のご自宅の屋根裏部屋の書庫といえよう。その後中学、高校、大学とほとんど図書館利用の記憶がない。一度だけ、大学の古びた大きな図書館に入った記憶が残っているが、その目的は定かでない。

大学の卒業研究で Bessel 函数、Neumann 函数、Hankel 函数を利用しなければならないことになった。数学ハンドブックを見れば、一応の漸化式や公式は記されているが、その原本を読みたくなり土木工学科の図書館で探したが見つからず、とうとう国会図書館にそのコピーを依頼した。送られてきたドイツ語の原本を独りで何日もかけて訳した。その当時、大学の教授にはドイツ語の単語に「て・に・を・は」を付けて講義する先生やドイツ語文献を配布して涼しい顔の得意な先生方が沢山おられた。私が研究(?)の為に図書館を利用したのはこれくらいであろうか。

さて、最近はずいぶん外国に出かけたりする予備知識を得るために、それらの国の地図や歴史・風土に関することを図書館で調べること、また趣味の駄文を書き残すために郷土史や古地図などを調べる機会が多くなった。したがって、我家の本箱には世界地図、諸外国旅行案内書および少し内容の濃い歴史書が並び、おまけに地球儀もある。

大学の図書館は、本来大学の先生方や学生達が利用する為にあるのだろうが、一般の地域の人達にも利用できるようにしているところも多い。本学もしかりであるが、最近では書籍以外の数多くの情報を開くことのできるインターネットや CD 等の利用者も多い。ますます図書館の利用者が増えることを期待したい。

街の本屋の書棚には時代の世相を反映した新刊やハウトゥ物が多くみられる。私も興味本位でつい買ってしまふこともあるが、完読したものはほとんどない。しかし、公営の図書館や大学の図書館で借りた本は、当然目的がはっきりしているから熟読することになる。また、その本の利用頻度が記録に残っているために、自分と同じような目的で利用した人がいたことを知り、嬉しくもなる。



情報をどうやって得るか

図書館とインターネット

人間文化学部 環境情報学科助教授 鶴崎健一

最近、本や雑誌をじっくりと読むことがなくなった。学生の皆さんのことではない。私自身のことである。書物を読むことは基本的に好きはなすのだが、なぜだろうかと考えてみた。原因の一つはインターネットの利用である。自分がほしいと思う各種情報は、本や雑誌、新聞から得るよりもインターネットを利用することが非常に多くなった。今やインターネット上で、リアルタイムにありとあらゆる情報が取り出せ、本や雑誌などに掲載されるときには既に過去のこととなっていることも珍しくない。新聞でさえも同様である。インターネットのニュースサイトを利用すれば、新聞の主要な位置を占めるニュースでも内容を把握する程度なら十分である。また、すべてではないが新聞に記載された各種コラム、エッセーも読むことができる。

教育や研究に関しても、各種情報は豊富だ。雑誌に掲載された研究論文を検索できるサイトもあるし、近年に出版されたものであれば大抵は抄録も読める。また、使用料を支払えば、ホームページ上で雑誌の内容をすべて読むことができる。世界中の研究者の研究内容を把握するには非常に役に立つのだ。また、何か知りたい時、その事柄について検索を行えばその情報がどこにあるかが、瞬時にわかる。たとえばある検索ソフトで、「環境ホルモン」という言葉を検索すると約 80,000 件もの関連サイトが出てくる。百科事典ではこうはいかない。私自身反省もしなければいけないのだが、つついこれらだけを見て必要な情報を得た気分になってしまう。さて、これだけの多くの関連サイトが見つかったとしても、この中から本当に自分のほしい情報をすぐに得ることができるのだろうか。「環境ホルモン」について調べるにしても、用語の意味を知りたいのか、研究や何らかの活動について知りたいのかなど、目的はかなり異なっているのだ。80,000 件ものサイトを一つずつ見てい

くわけにもいかない。つまり、基本的なことを知らなければ誤った情報を信じてしまう可能性があるのだ。昨年、1 年生対象の教養ゼミの「水を考える」というテーマで、ある学生が「単分子水」というものをインターネット上のあるサイトで見つけ、取り上げた。そのサイトでは、「単分子水」には、人体に有益で、かつ、ダイオキシンを分解するなど、すばらしい効能があるという。また、ある装置を利用すると簡単に製造できるという。少しだけ化学と物理の知識をもっていれば、ちょっとおかしいと思うはずなのだが、学生自身はめずらしい自分の知らなかった“水”があるという程度の意識で取り上げたらしい。詳しい説明は避けるが、効能についても疑問があるし、紹介された装置で作ることができるとは思えないということで落ち着いた。また、ある授業で、ある化学物質のことについて調べてくるよう求めたのだが、その内容に誤りがあるので指摘すると、インターネットで調べた内容だという。どのようなサイトを利用したのか分からないが、どうもサイトの記載内容に不十分な点があったため、誤りが起きたようだ。私の所属する環境情報学科ではその性質上、学生がインターネットを利用する機会が多く、その便利さゆえに、つつい何でもインターネット上の情報で済ませようとする傾向が強い。しかし、インターネット上の情報には、十分なチェック機能はなく、また作成者の意図の不明な場合も多い。作成者が仮に意図してなくても結果的に「うそ」や「間違い」が多くなってしまふのだ。上記は、それらに「はまってしまった」例といえよう。

さて、インターネット上のサイトを含め、世の中にたくさんの情報が存在している中で、一般的に正確と思われるものを集積した場所が大学の附属図書館だということができるだろう。必ずしも最新で、すべての情報を網羅しているわけではないが、多くの蔵書・雑誌には信頼できるものがそろっているといえる。なぜなら、図書館にある本や雑誌の編集には、通常、筆者以外にも多くの人が携わっているため、不適切な表現や記載のミスなどはほとんどないと言えるから



だ。通常大学で学習する内容については、断片的な情報の記載の多いインターネットよりも、図書館の書物のほうが調べたい事象の周辺部まで把握しやすい。図書館にある本や雑誌が完全・完璧な情報とはもちろん言えないが、特に大学で学ぶことの基本的な情報は図書館を利用するほうが望ましいといえるだろう。基本的な知識をしっかりと習得した後、さらに応用的な書物の利用やインターネットの利用によって知識を広げていくことが大学の学習として望ましいのではないかと考える。その際、必要な書物があればその検索は、図書館へ直接行かなくとも、

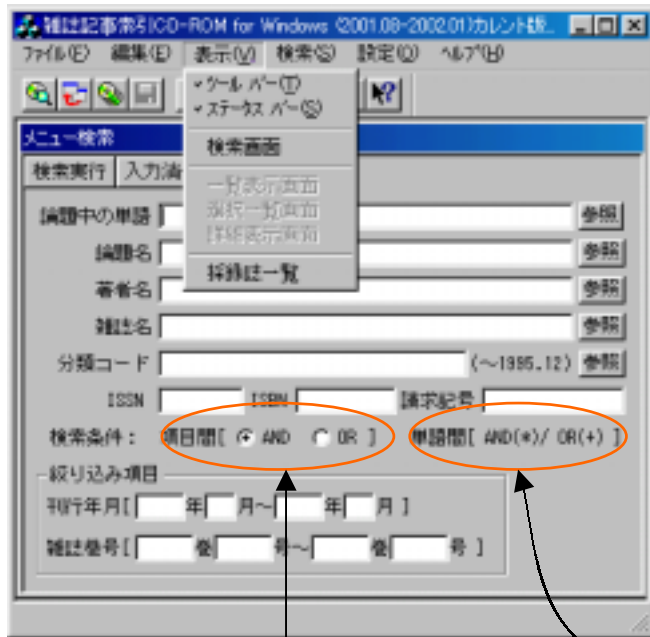
学内 LAN やインターネットで可能である。また、本学内に目的の本がなくてもインターネットを利用することで他大学の図書館の蔵書を検索でき、場合によっては書物の貸し出しやコピーも可能である。

学生の皆さんには、自分の得べき情報の種類によって、情報の獲得に適した方法を選ぶ必要があることを知ってもらいたいと思う。インターネットだけでなく本を利用する場合でもそうだが、情報の本質を見ぬく能力をつけるためにも、是非、図書館を利用してほしいと思う。



雑誌論文を探す

ここでは雑誌論文を探すために役立つデータベースを紹介します。



**雑誌記事索引
CD-ROM カレント版 (1990 ~)**

雑誌記事索引は国内で刊行され、国立国会図書館が収集する雑誌のうち、採録対象誌に掲載された記事情報を収録した索引ファイルです。

学術雑誌、大学・短大等の紀要・専門誌を中心に、全分野をカバーしています。採録誌はこのデータベースでも、国立国会図書館ホームページ (HP) でも確認することができます。

検索には**メニュー検索**と**コマンド検索**があります。検索になれていない方にはメニュー検索がおすすめです。

AND・OR 検索

項目間での検索条件は AND または OR のどちらかをクリックし、単語間の検索条件については AND 検索ならば単語と単語の間に “ * ”、OR 検索ならば “ + ” を入力します。

例えば、“図書館”と“索引”の両者をキーワードに持つ文献を検索したいときは“論題中の単語”のフィールドに **図書館*索引** と入力します。この時 “ * ” の前後にスペースを入れしないで下さい。

豆知識

カーソルの移動

検索したい項目の入力フィールドへカーソルを移動させるには、移動先の入力フィールドをクリックするか、“Tab”キーを押しても移動することができます。

検索結果の一覧表示や用語一覧（検索語入力後参照をクリック）から複数選択する場合は、“Shift”キーを押しながらクリック、または、“Ctrl”キーを押しながらクリックして下さい。

データの選択

アクセス方法 - 雑誌記事索引 -

福山大学附属図書館 HP の検索をクリック



データベースをクリック
CD-ROM をクリック

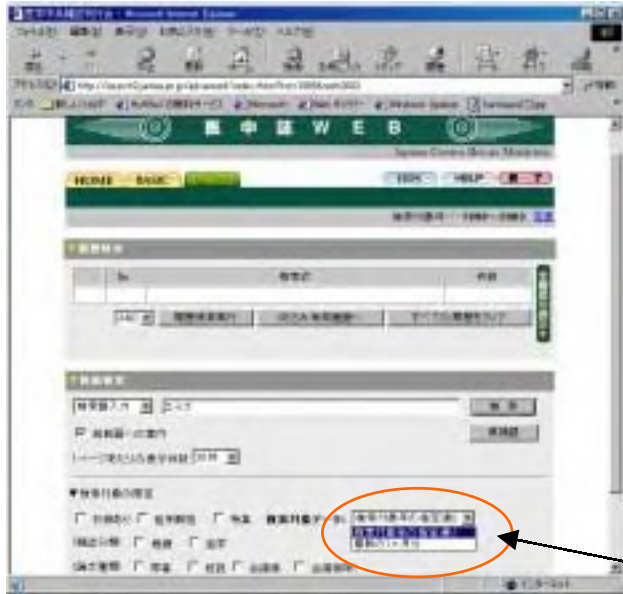


データベースをクリック



ZSK をクリック

雑誌記事索引は国立国会図書館 HP(<http://www.ndl.go.jp/>)からも検索することができますが、検索方法等、多少異なりますのでそれぞれを上手く活用して下さい。



医中誌 Web

医学中央雑誌（通称“医中誌”）は国内医学文献の抄録誌として1903年に創刊されました。収録文献は国内で発行される医学・歯学・薬学、及び関連領域の定期刊行物、約2,400誌から採択されています。

医中誌 Webでは1983年からの医中誌収録データ4,875,532件が収録（2003年8月現在）され、2002年には1年間に30万件近いデータが収録されました。

なお、データの更新は毎月1回行われており、この最新更新1ヶ月分だけを検索することもできます。

検索には **Basic Mode** と **Advanced Mode** があります。Advanced Modeでは、「検索履歴の保持と再利用」「検索語の一覧表示」「検索フィールドの細かい指定」などが可能です。

医中誌 Webには Ver.1 と Ver.2 があります（9月9日 Ver.3 公開予定）。Ver.2に限って言えば、個人的には Advanced Mode がおすすめです（Ver.1は Basic Modeのみ）が、どのインターフェースもわかりやすい画面構成になっているので、一番使いやすいと思ったものをご利用ください。

検索フィールドを指定しない限り全文検索を行い、その文字列がデータ中に存在すれば必ずヒットします。そして“統制語への **Mapping**” がされているので、よりの確な検索結果が得られるようになっています。

医中誌 Webは図書館 HP からリンクされています。前頁の「**アクセス方法**」の **情報データベース** をクリックください。

Mapping とは、検索語がある統制語の同義語である場合、検索語による検索プラスその統制語による検索も行う機能です。

例えば、カタカナで「エイズ」と入力して検索した場合、次のようになります。

1. 「エイズ」で検索を実行すると、まず、「エイズ」という文字列で同義語辞書を探索。
2. 「エイズ」は統制語である「AIDS」の同義語なので、「AIDS」が索引されている文献を検索。（この部分が Mapping）

3. 次に「エイズ」という文字列を含む文献を検索。
4. 検索結果として表示されるのは、2. と 3. の和。これを検索式にすると、

AIDS/TH or エイズ/AL となります。

これは、統制語フィールド(TH)を対象に「AIDS」で検索した結果とオールフィールド(AL)を対象に「エイズ」で検索した結果の和(OR検索)を求めたことを表しています。

また Mapping が不適切な場合等、検索式を変更したい場合は「式の編集」画面で検索式を作ることができます。詳しくは HELP を参照してください。HELP では検索の流れや、様々な機能を大変わかりやすく紹介しています。

参考文献：松田真美，「医学中央雑誌インターネットサービス：医中誌 Web」，『医学図書館』，2000,47(1),p.85-91.

SciFinder Scholar

サイファインダー スカラールは医薬、生化学、物理、工学等の科学情報を、効率的に入手し、利用できるオンライン検索サービスです。

検索機能



収録情報 (CAS・MEDLINE)

ファイル名	内容	収録範囲
REGISTRY	化学物質情報	1957年～
CA plus	文献情報 (Chemical Abstracts)	1907年～
CASREACT	有機化学反応情報	1907年～
CHEMCATS	試薬・化成品カタログ情報	現在
CHEMLIST	既存化学物質台帳の情報	現在
MEDLINE	生命科学、医学文献情報	1958年～

構造検索, 化学反応検索.
名称検索, CAS登録番号検索.
分子式検索.

化学物質検索.
研究トピック検索.
著者名などの検索.
CA抄録番号, 特許番号検索.
著者所属機関, 特許出願人検索.
目次の縦覧.

このデータベースは多くの検索機能があることに加え、特別なトレーニング無く使えることが想定され、利用者自身が直接利用し易いものになっています。

機能の一つに、検索結果の回答集合に対して、様々な観点からの分析や絞り込み (**Analyze or Refine References**) ができる機能があります。これにより、検索結果の分布や傾向を知ることや、効率よく検索結果を絞り込むことができます。その他にも、検索結果の文献の関連情報を検索 (**Get Related**)、電子ジャーナル (図書館で購読しているもの) や特許へのリンク (日米欧の各特許庁は特許明細書をインターネットで無料公開) など、多くのサポート機能があります。

SciFinder Scholar は利用端末が限られています。ご利用の際は、遠慮なく館員に尋ねてください。また、詳しい利用方法が SciFinder Scholar の HP (化学情報協会提供) に紹介されています。参考にしてみてください。

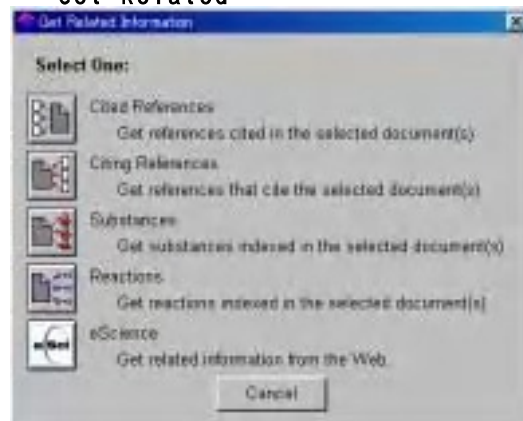
<http://www.jaici.or.jp/sci/SCHOLAR/index.html>

参考文献：時実象一，「連載 SciFinder 入門～化学情報に強くなる」、『化学』2003, 58(1), p.40-41; 58(2), p.40-41; 58(5), p.48-49.

時実象一，『インターネット時代の化学文献とデータベースの活用法』2002, p.99-112.

以上3つのデータベースの利用は本学教職員及び学生の方に限られています。また、同時利用者数が制限されていますので、検索終了後は必ず検索終了処理を行ってください。

Get Related



論文中の参考文献.
この論文を引用している文献.
この論文で扱われている化合物.
この論文で扱われている反応.
関連情報を Web で検索.

NACISIS Webcat

見たい文献があった時、その雑誌や図書を本学の図書館で所蔵しているか確認するためには国立情報学研究所が提供している、全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の目録検索サービス、NACISIS Webcatを使うと大変便利です。

<http://webcat.nii.ac.jp/>

検索方法

それぞれのフィールドに検索語を入力し、**検索開始**をクリック

- ・語尾に“*”を入力すると前方一致検索をします。
- ・著者名を入力する場合、姓名を空白で区切ってください。(雑誌論文の場合、執筆者名を入力してもヒットしません)
- ・雑誌の場合、出版年は創刊年なので、論文の掲載年を入力してもヒットしません。
- ・入力方法の詳細は**利用の手引き**を参照してください。

該当の雑誌をクリック

- 1. は冊子体
- 2. は電子ジャーナル

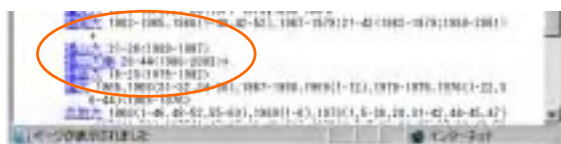
検索結果の見方

[福山大](#) 21-28<1980-1987> : 本館
[福山大薬](#) 29-44<1988-2003>+ : 薬学部分館

所蔵館 所蔵巻号数<所蔵年数>継続受入の有無
 (“+”がついていれば継続受入中)

NACISIS Webcatは図書館HPからもリンクされています。トップページの**検索**をクリックし国立情報学研究所のサービスのうち、**Webcat**をクリックして下さい。

検索の結果、必要な文献を本学が所蔵していなかった場合、他機関から、取り寄せることができます(実費必要・学内者に限る)。館内の「文献複写申込書」に必要な事項明記の上、カウンターで申込み下さい。または、図書館HPから申込むこともできます。5頁の「**アクセス方法**」の **学外複写・貸出**をクリックして下さい。



図書館のみんなに支えられて...

附属図書館職員 加藤 淳子

教員生活を辞してから、5年位家族3人のんびりした日々を送り、稽古事や実家の母を連れ、東城や美星町等の周辺を車で走り、四季を楽しみ、朝はゆっくり起き、ランチをとる、特別これといった予定のない気楽な生活でした。そんな中私に「遊んでるんでしょ、勤めはどうか」ってお話があり、縁あって来させて頂くことになりました。配属は図書館。利用する側だった私は静かでのんびりして、集中できる雰囲気であると思っていました。図書館の中では、どの部所も目まぐるしくみなさん働き者です。私の方はというと本に追い回されていますが、毎日が新しい発見です。いつも仕事は楽しくやればいいと思っていましたが、「仕事は楽しいだけではやれないでしょ」と言われ、なるほどと思い、一度に30~50冊の返却があると、驚愕してしまいましたが「それが仕事でしょ」と声がかかります。もっともだと納得！頑張る自分です。考え方や価値観などの違いは当然ですが、それを乗り越えて楽しくやっています。いい仕事をしている人は情報収集がうまく、時間の使

い方がうまいし、より豊かな生き方をしておられるのではないかと思います。自分がどれ程のことができるか、力のなさを感じますが、やれるかどうかより、やっていきたいと思います。また大の苦手な原稿も具体的なものにならず凹んでいた時、尊敬する先輩より自分自身の身近なものを書いたら、とアドバイスを受けやっと踏切がつかしました。今もみなさんに支えて頂いていることに感謝しています。毎日ひとつひとつ、積み重ねた結果として、じぶんが自分らしく、今日一日を大切に精一杯生きていきたいと思います。我が家も、図書館もそれなりに仕事は山積みですが、どちらも、快いサイクルで、楽しんでいます。大学の心臓部である図書館は「知の社会保障」としての役割も担うところです。本との出会いもそして本だけでなく、いろいろな人たちとの出会いもあります。大いに利用して頂きたいと思います。利用する際のお願いがあります、一言「貸し出しお願いします」とか「返却」とか、声をかけてほしいです。それに答えて、やさしい声で、対応しますよ。ぜひ図書館に足を運んでみませんか！



教員著作寄贈図書 (2002年度)

【経済学部・経済学科】

小林陽治 『商業簿記』 晃洋書房(336.91/K)

【工学部・建設環境工学科】

森 忠次 『測量学 改訂版』 丸善(512/M/2)

【工学部・建築学科】

芳賀保夫

『山口県地盤図』

中国地方基礎地盤研究会(455.177/N/'02)

(敬称略)

ご惠贈いただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

図書館では、本学教員著作図書を収集しております。図書を出版される折には是非ご協力ください。よろしく願いいたします。

書評『沈黙の春』

生命工学部 応用生物科学科教授 山本英二

環境について考える機会が多くなった。環境という言葉自体、境の環、すなわち取り囲んでいる周りの世界、ということであるが、人間を取り囲んでいる周りの世界を意味するのが普通である。したがって、人間を中心にした主観的な言葉のようであるので、宇宙、自然の中に住まわせてもらっている身としては、自嘲して使わなければならない言葉である。

しかし、人間は主観的にそのときどきの都合の良い環境を求めてきた。そのような人間の営みも自然現象に違いはなく、指数関数的に進むことから、自然に対する人間の影響は産業革命以降、今になって目に見える急激な変化を見せている。その結果が食糧不足や工業生産、農業生産によるエネルギー不足、水不足、大気、水、土壌の化学物質による汚染に繋がり、自然のバランスを大きく崩してきた。

この今や困り果てた人間の横暴を、約40年前、原子力が万能と考えられ自然が片隅に追いやられようとしていた時代に、「ちょっと待って」と問いかけたのが1962年に出版された『沈黙の春』であった。私がこの本の訳本(1974年発行)を手にしたのは学生時代であった。



『沈黙の春』レイチェル・カーソン著、青木築一訳

(519/C, 519.79/C : 本館)

「・・・生命あるものはみな、自然と一つだった。・・・道を歩けば・・・野花在咲きみだれ、四季折々、道行く人を楽しませる。・・・春と秋、渡り鳥が洪水のように、あとからあとへと押し寄せては飛び去る・・・ところが、あるときどういう呪をうけたわけか、暗い影があたりにしのびよった。・・・自然は沈黙した。うす気味悪い。鳥たちはどこへ行ってしまったのか。」文学的表現で惹き付ける本書の冒頭の寓話であるが、本文では、化学薬品との関連において自然がどのように破壊されているか、破壊された自然はいずれ人間も破壊することを具体的な例を生物学者の観点から数多く述べている。

当時、化学会社や農家からの反発があったことはもちろんであるが、この本をきっかけに、レイチェル・カーソンを招いて上院公聴会が開かれた。それに対して、J.F.ケネディー大統領の科学諮問委員会は、「環境に対する新たな考え方を教えた」と評価した。その結果 DDT その他の残留性農薬の厳しい規制が行われ、鳥類への化学薬品の影響が緩和されたことは有名である。

本書では、化学薬品の急性毒性、生体への濃縮、慢性毒性に警鐘を鳴らすだけでなく、有毒な殺虫剤や除草剤に替わるものとして、最終章の「別の道」でまとめて、天敵の導入や、昆虫の不妊化や幼虫ホルモンの利用などを挙げている。しかし、現在、農作物の30%が昆虫に消費されること、昆虫を媒介とする伝染病がまん延する地域があることを考えると、殺虫剤が諸刃の刃であることを承知しながら、当面の利益を考えて、注意しながら、安全性の比較的高い農薬を使用せざるをえないようである。殺菌作用のある Bt 遺伝子を組み込んだ遺伝子組み換え作物が出てきたがこれも安全性の確認という意味で過渡期である。

今回読み直して認識し直したのは、現在、環境ホルモンの影響として論じられていることも、環境ホルモンと命名はしていないものの、すでに盛込まれていることである。ある種の殺虫剤が肝臓障害を引き起こし、女性ホルモンのエストロゲンの不活性化が十分でないときは癌を誘発することにまで言及している。すばらしいデ

ータ収集力と解析力と先見性には驚くばかりである。

彼女はこの本の執筆中に癌に冒され、発行の2年後の1964年4月14日56歳で死去したが、その後まとめられた遺作「センス・オブ・ワンダー(不思議さに驚嘆する感性)」の文章に彼女の一貫した信念を感じ、共感を覚えた。

「人間を超えた存在を認識しおそれ、・・・地球の美しさと神秘を感じとれる人は、科学者であろうとなかろうと、人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることはけっしてないでしょう。たとえ生活の中で苦しみや心配ごとにてあ

ったとしても、かならずや、内面的な満足感と、生きていることへの新しいよろこびへ通ずる小道を見つけだすことができると信じます。」

『センス・オブ・ワンダー』

レイチル・カーソン著(404/C:本館)

図書からのお願い

附属図書館事務長 牛尾一之

私は図書字郎と申します。誕生して以来この館に住んでおります。誕生当初は身体全体が新しくきれいでしたが、月日が経つにつれて身体もガサガサになってきました。しかし、それも皆様に可愛がってもらった証しとっております。

それはさておき、今回ここで皆様をお願いしたいことが数点ありますので、申し上げます。

ここに居住した当初は居住者も少なく場所もゆったりとしていました。それが最近仲間が増えてきてゆとりが余りありません。そのため、私達を探すのが難しくなったかもしれません。しかしこれからお願いすることを守ってもらえば少しは違うと思います。

私達は分野毎に纏まっており、名札として3段のラベルに上に分類番号、中に著者の頭文字一字がローマ字で、下が全集、叢書等の番号がかかれて背表紙に貼られています。それにより、分類番号、ローマ字、全集番号等の順番に並んでいます。ですから、検索し分類番号が分かればその番号の所へ行くと、貸し出されていなければその場でみることができます。しかしなが

ら書架より抜いて使用した後、元の場所に戻してあればよいのですが、全然関係のない分野に無造作に入れ込んでしまう場合が多々あります。こうなると皆さんが求めるものが行方不明という形になってしまうので、利用に支障をきたしてしまいます。自分自身が居住場所にいけるのならよいのですが、それは出来ませんので頼るのは図書館の皆さんです。図書館の皆さんも出来る限り乱れの直しをしてくれていますが、それにも限度があります。それでいつも直し、乱れのいたちごっこで終わってしまいます。ですから、皆さん自分が書架から取り出したものは、必ず元の場所へ番号を見てその順番に戻して下さい。

それと私達を逆さに入れられる場合がありますが、真直ぐに入れて貰わないと目が廻ってしまいますし、皆さんも探すのに困るのではないのでしょうか。

最後のお願いですが、私達にとって大切な見返し及び扉とかを切ったり、文章に線を引いたりはしないで下さい。私達は貴方だけのものではないことを常に念頭においていただき、少しでも多くの方が利用し易い図書館であることを願っています。協力をお願いします。





【冬の松陰生家跡】

吉田松陰（1830～1859）は、学問好きであったが、書物を読むなかで、必ずしも、広く深く考え、慎重に行動したとはいえない。また、明るく、快活に生きたともいえない。

薄っすら積もった雪の生家跡からはみ出した一つの石ころは、松陰その人のように思えてならない。また、背後のしきびの木は、松陰の若き死を悼んでいるように見える。 （K）

編集後記

創刊号はいかがでしたか。名称を『三蔵：福山大学附属図書館報』から『福山大学図書館報』として、創刊準備号を経て、このたび第1号を発刊することができました。原稿を寄せてくださった方々にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

ここ数年で、いろいろな情報が簡単に手に入るようになりました。パソコン・携帯電話等で情報を探することも簡単にできるようになりました。その一方、情報が氾濫し、その信憑性の判断力がより必要とされています。そこで、効率よく学習や研究に取り組むために図書館を上手く活用して欲しいと思っています。館報がそれに少しでも役立てば良いなと思います。 （花崎・大谷）

編集・発行 福山大学附属図書館
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
<http://libexp.fulib.fukuyama-u.ac.jp/>

印刷 三原プリント株式会社
〒729-0041 広島県三原市和田町6483